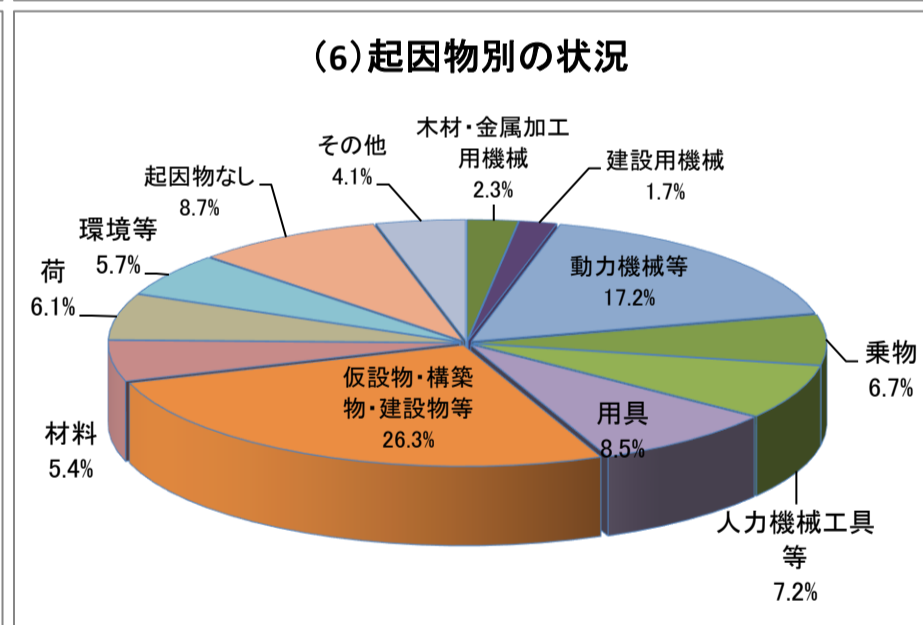
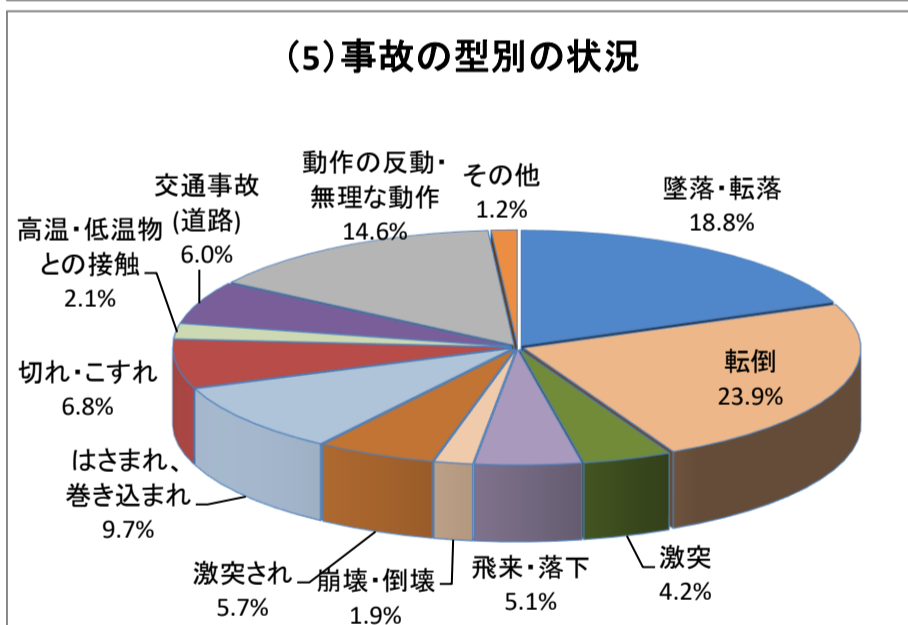
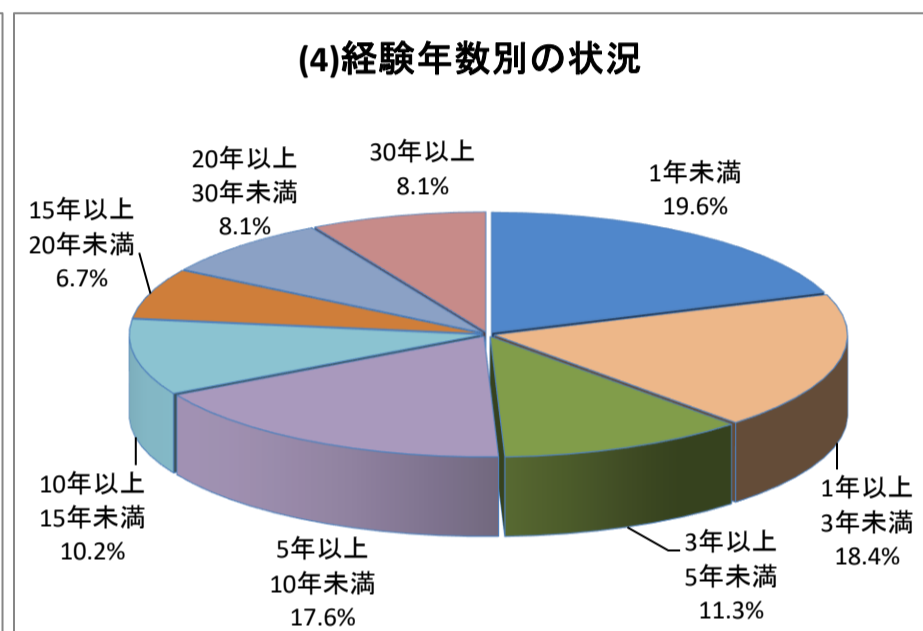
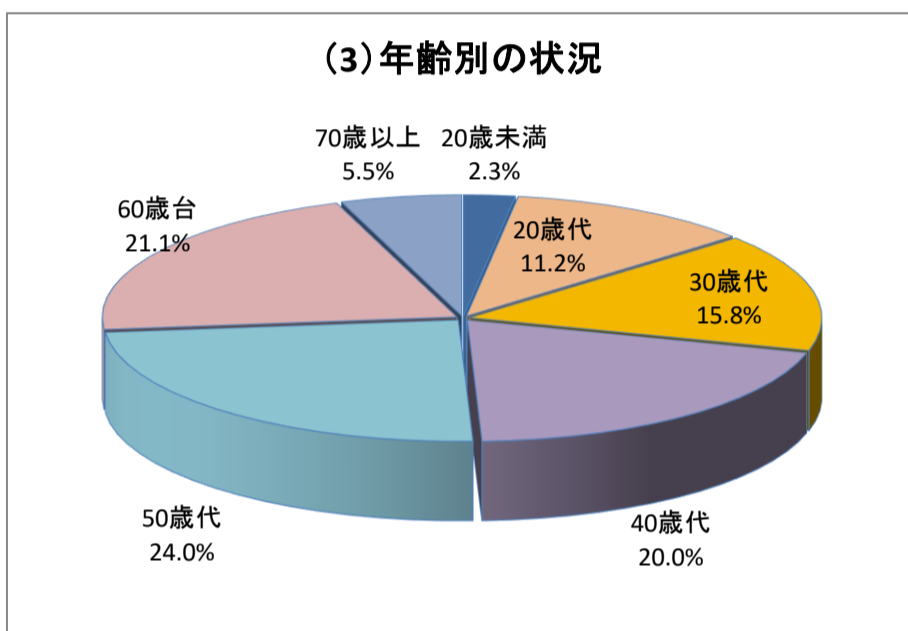
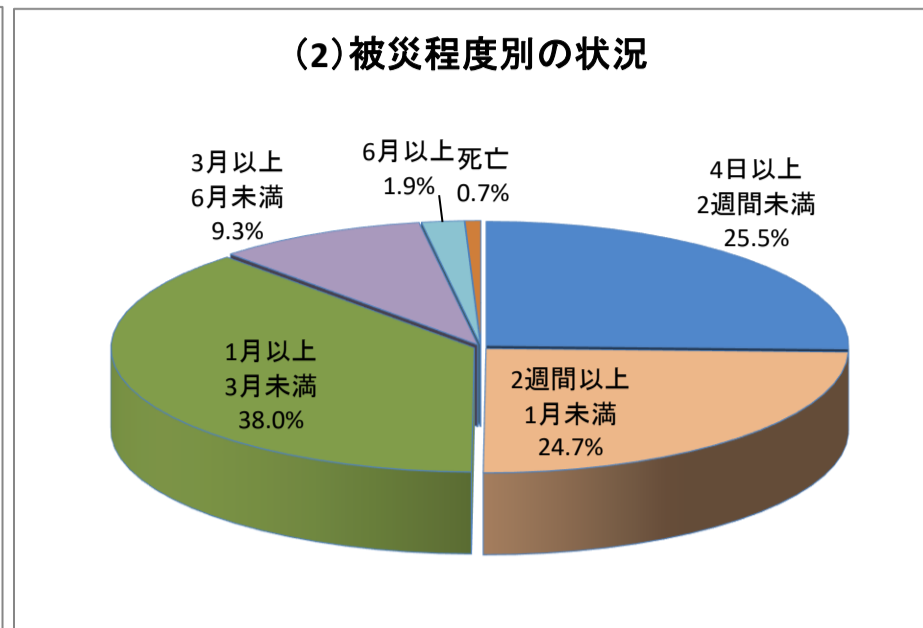
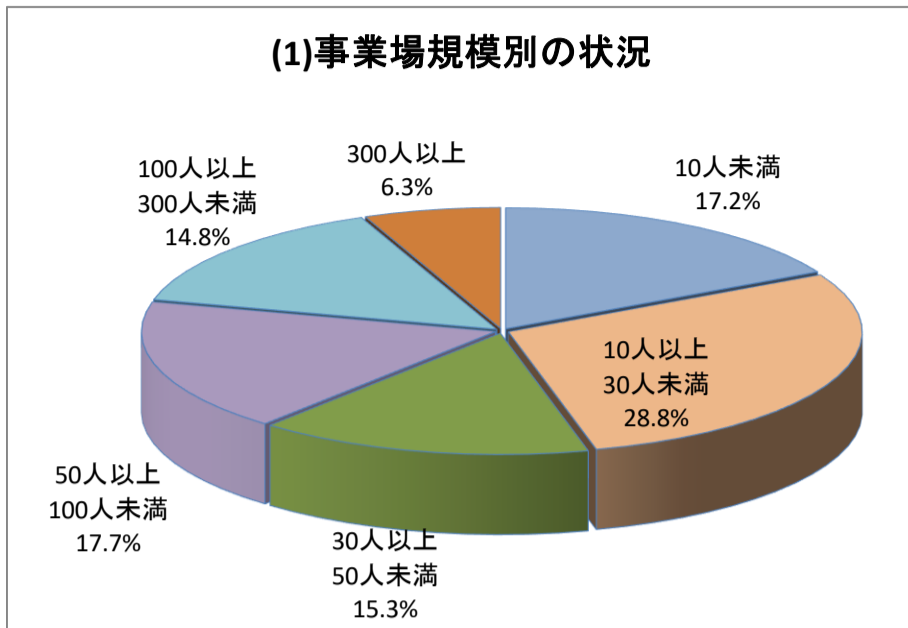


12.全産業における労働災害発生状況(令和元年)

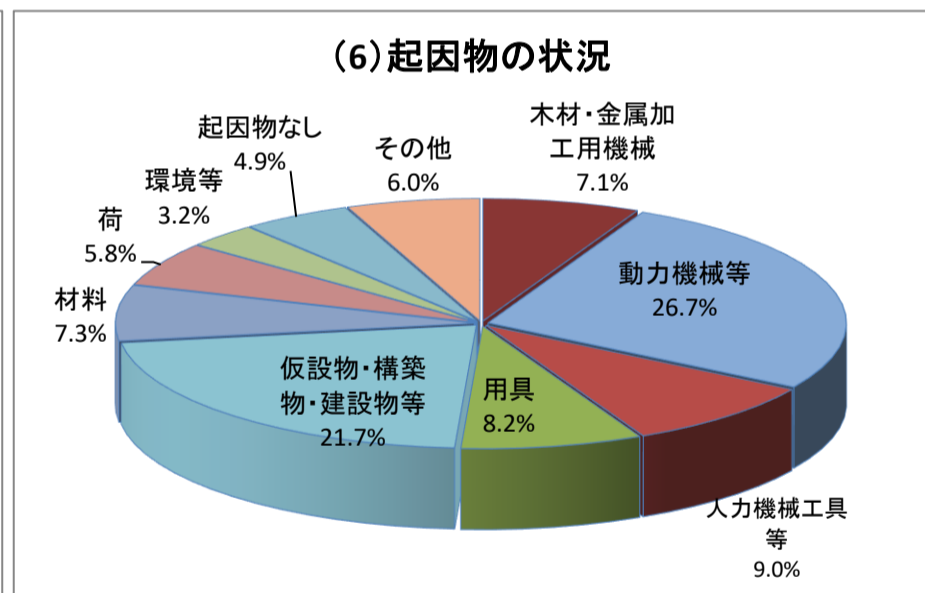
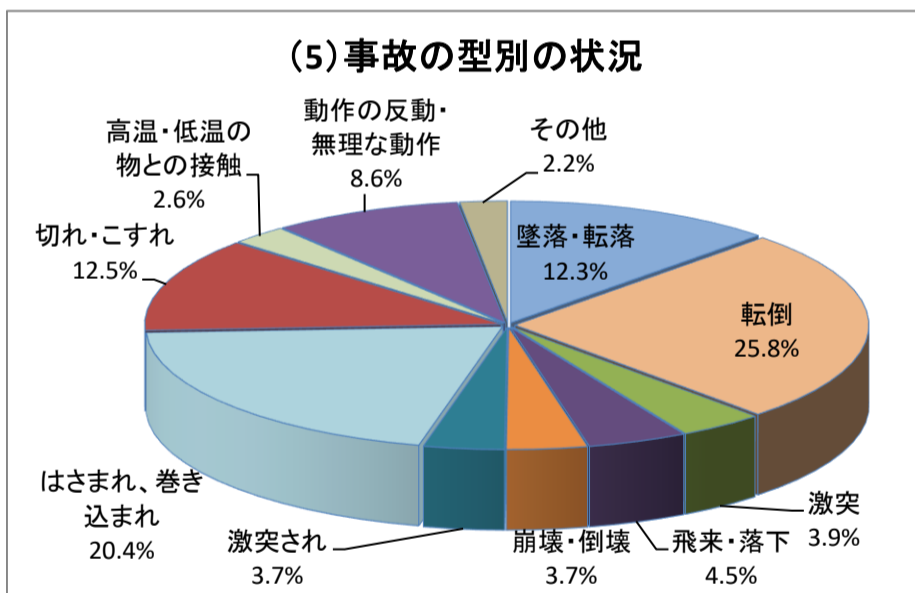
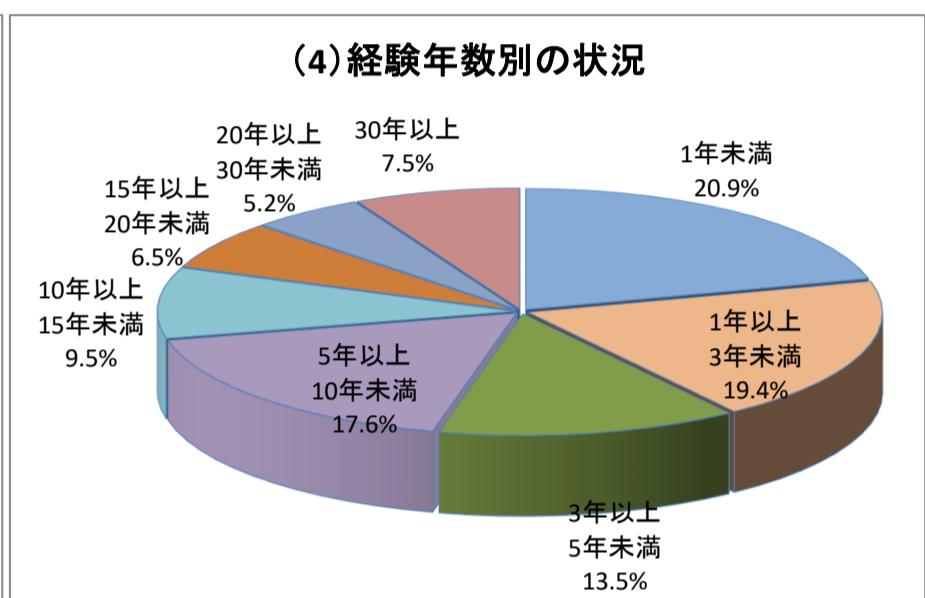
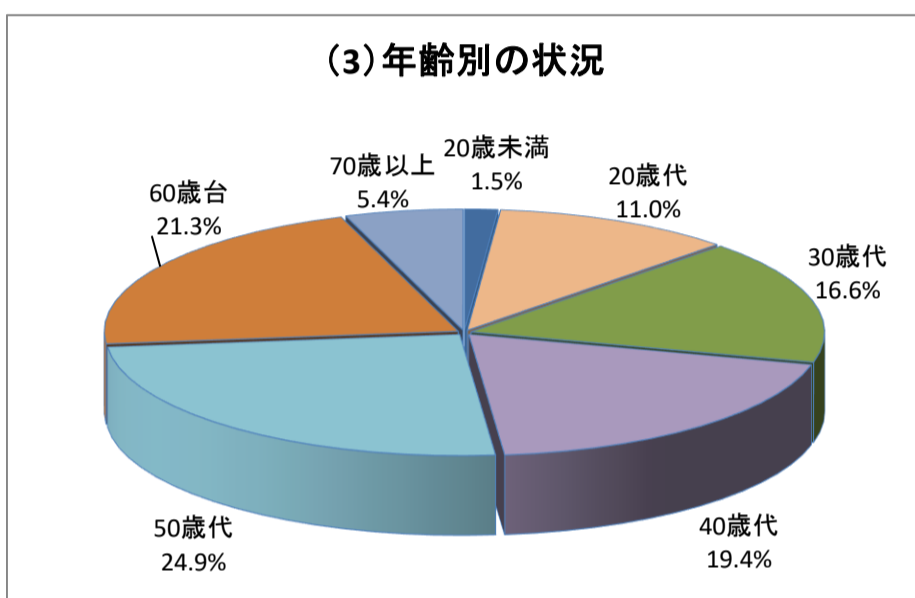
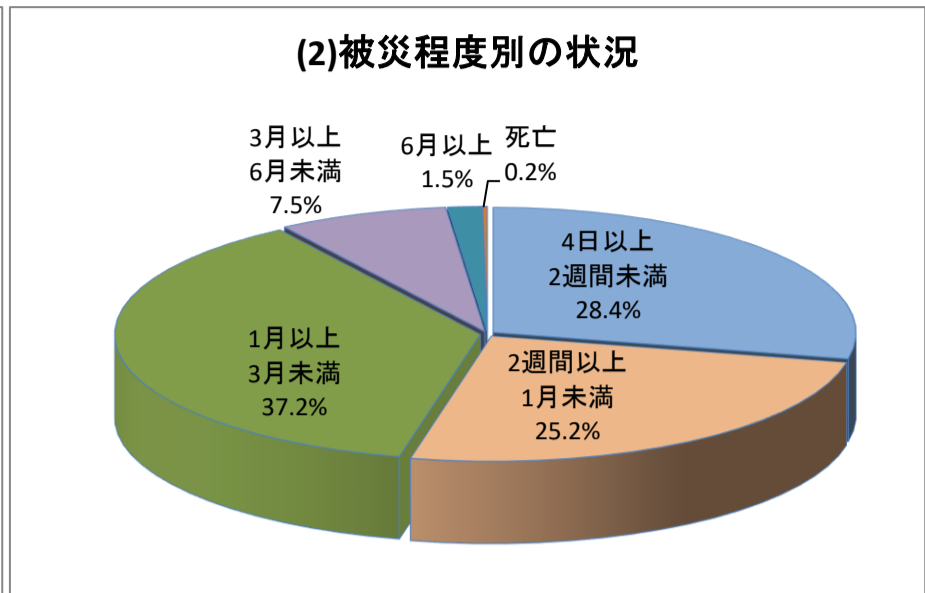
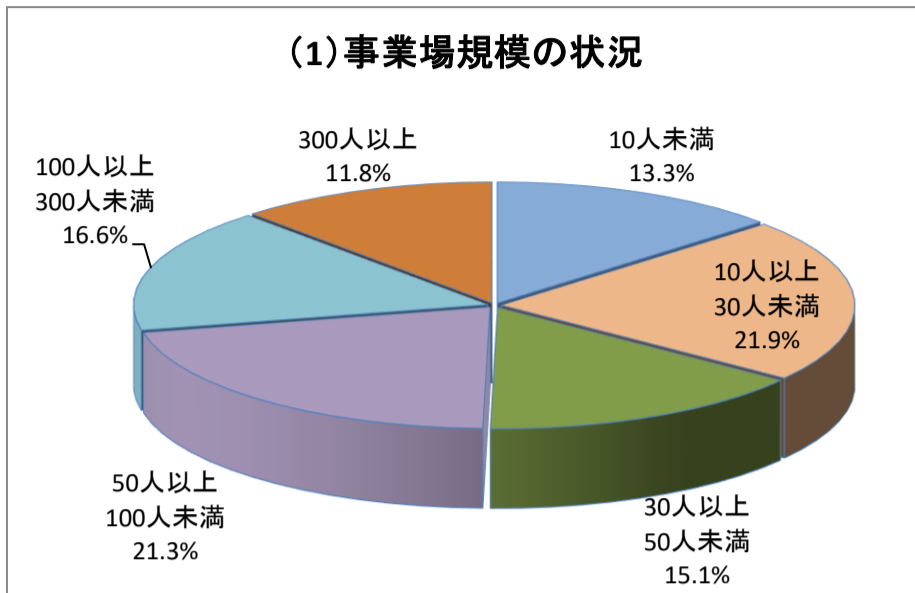
(全産業：2,432人)



- 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が28.8%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.7%、「10人未満」が17.2%、「30人以上50人未満」15.3%の順となっている。50人未満の事業場が61.3%を占めている。
- 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が38.0%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」が25.5%、「2週間以上1月未満」24.7%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合は49.9%である。
- 年齢別では、「50歳代」が24.0%と最も多く、次いで「60歳代」が21.1%、「40歳代」20.0%の順となっている。60歳以上の被災が26.6%と4分の1以上を占めている。
- 経験年数では、「1年未満」が19.6%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が18.4%、「5年以上10年未満」17.6%の順となっている。経験年数が短い者の割合が高くなっている。
- 事故の型は、「転倒」が23.9%と最も多く、次いで「墜落・転落」が18.8%、「動作の反動・無理な動作」14.6%（このうち23.1%が腰痛を発症している。）、「はさまれ・巻き込まれ」9.7%の順となっている。
- 起因物別では、「仮設物・構築物・建築物等」が26.3%と最も多く、次いで「動力機械等」が17.2%、「用具」8.5%の順となっている。（※「動力機械等」は、一般動力機械（食品等加工機械、ロール機等）、動力クレーン等、動力運搬機等の合計）

13.製造業における労働災害発生状況(令和元年)

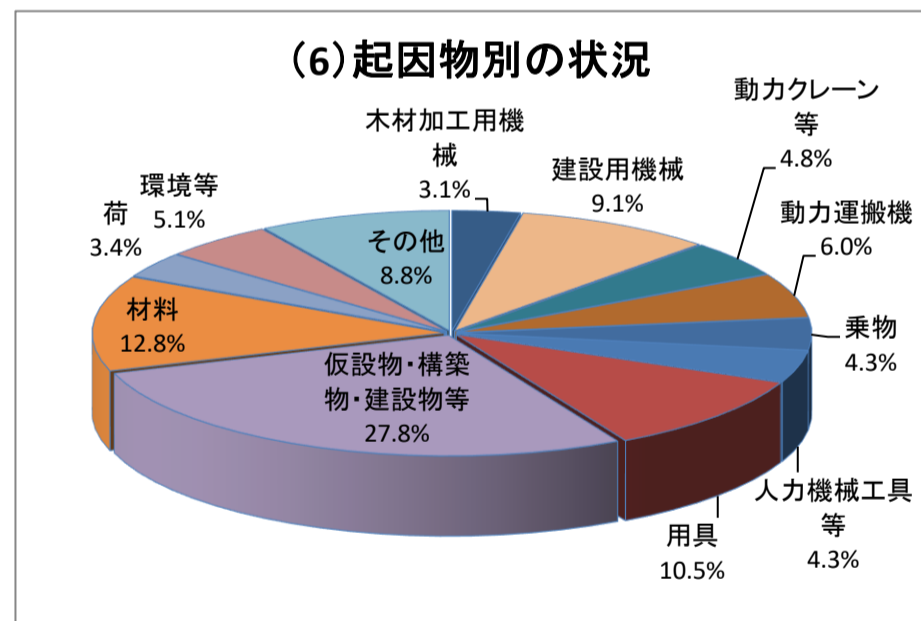
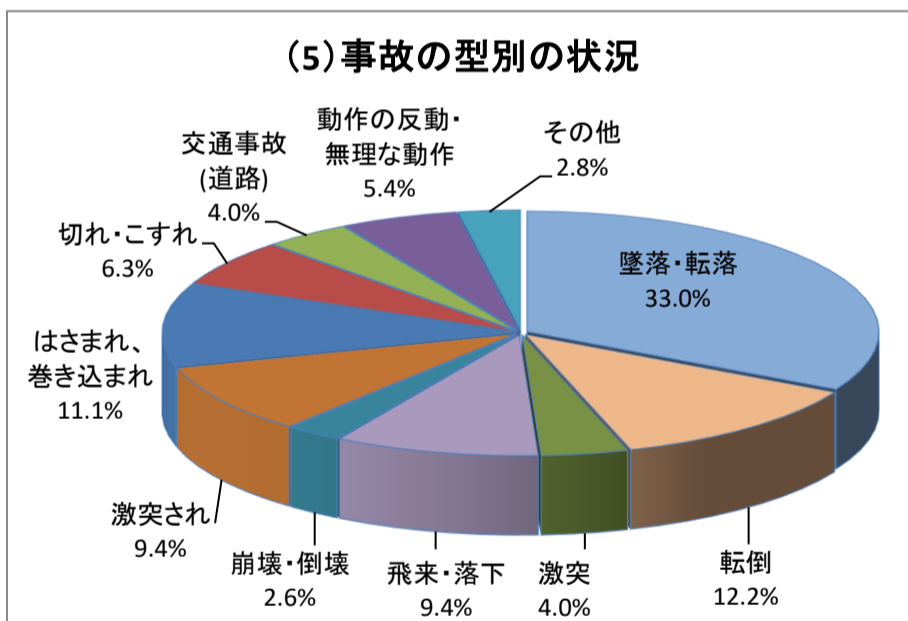
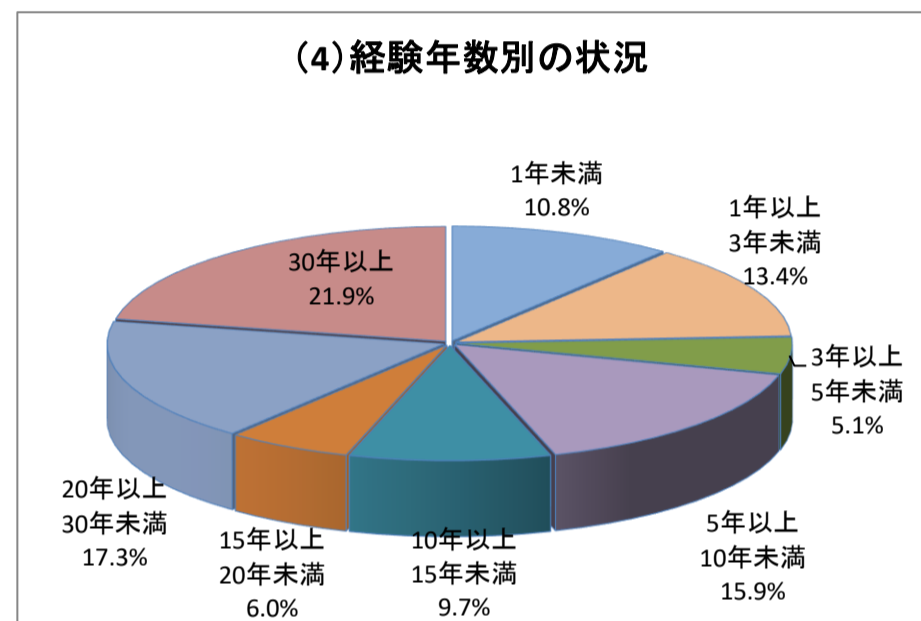
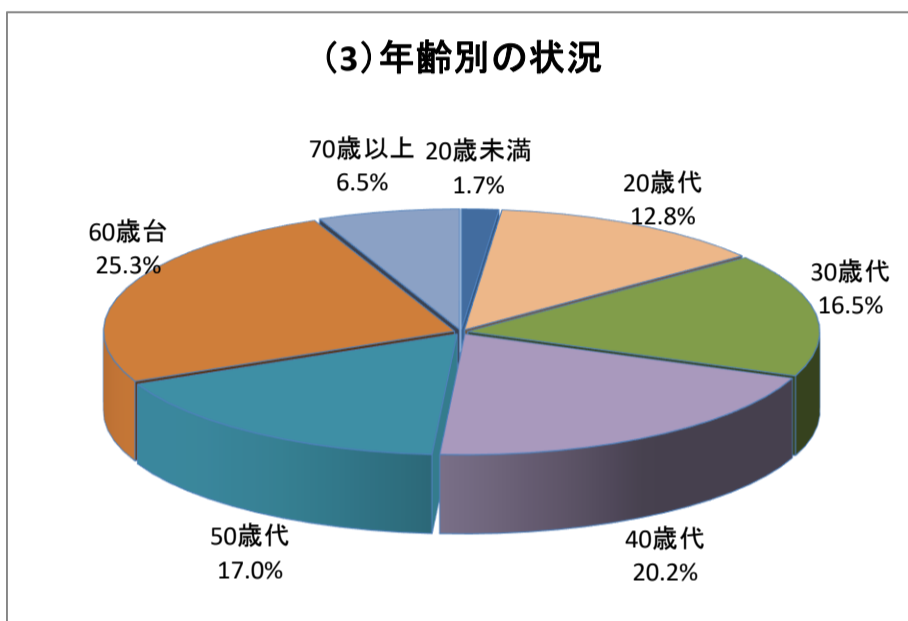
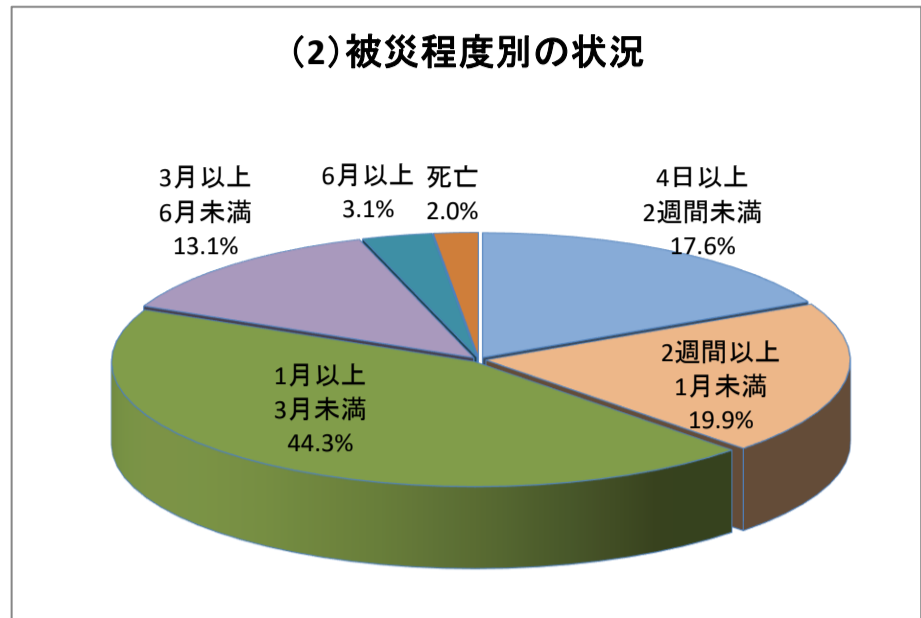
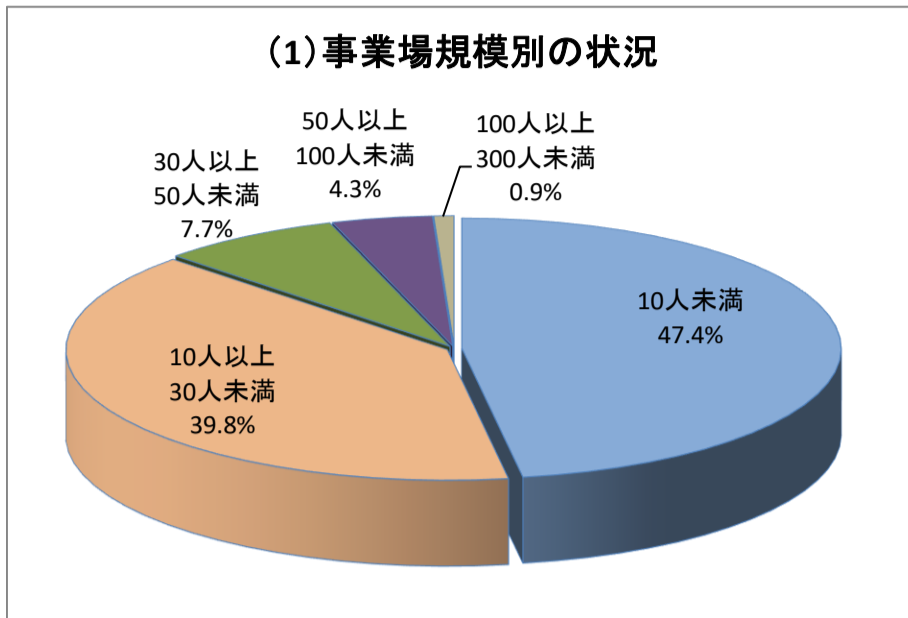
(製造業:465人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が21.9%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が21.3%、「100人以上300人未満」が16.6%、「30人以上50人未満」が15.1%の順となっている。50人未満の事業場が50.3%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が37.2%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」が28.4%、「2週間以上1月未満」が25.2%の順となっている。休業日数が1月未満の災害は53.6%、3月未満の災害は90.8%となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が24.9%と最も多く、次いで「60歳代」が21.3%、「40歳代」が19.4%の順となっている。60歳以上は26.7%を占めている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が20.9%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が19.4%、「5年以上10年未満」が17.6%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が25.8%と最も多く、「はさまれ・巻き込まれ」が20.4%、「切れ・こすれ」が12.5%、墜落・転落が12.3%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力機械等」が26.7%と最も多く、「仮設物、建築物、構築物等」(通路等)が21.7%、「人力機械工具等」が9.0%の順となっている。(※「動力機械等」は、一般動力機械(食品等加工機械、ロール機等)、動力クレーン等、動力運搬機等の合計)

14.建設業における労働災害発生状況(令和元年)

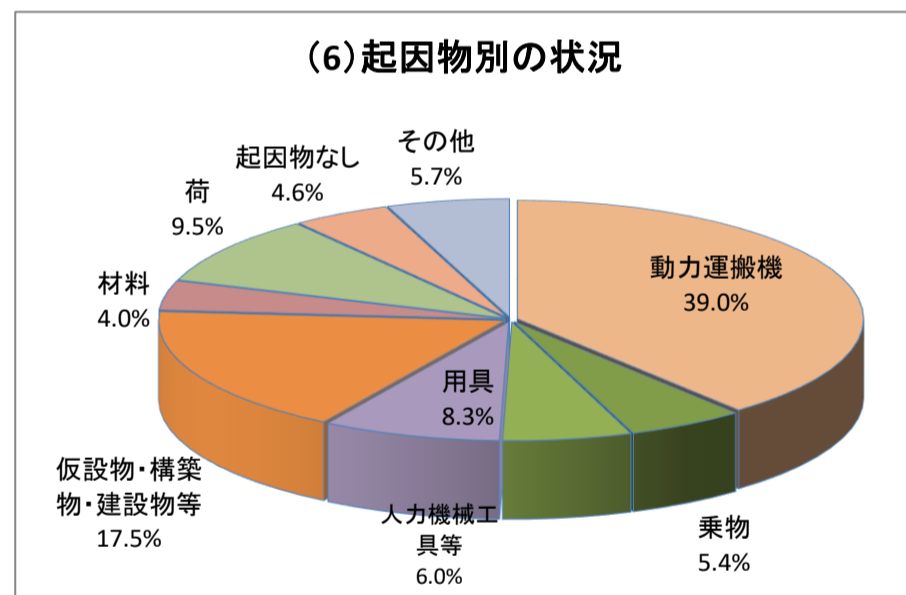
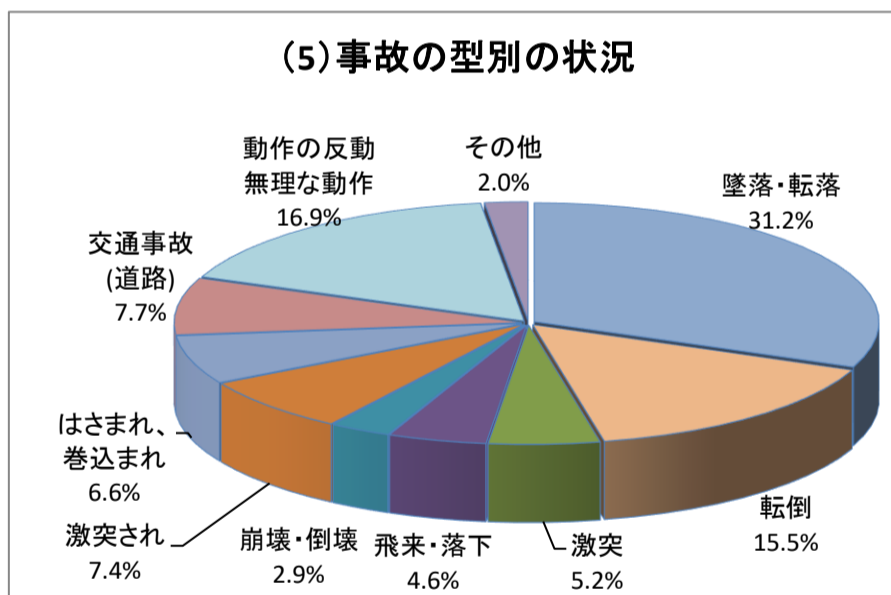
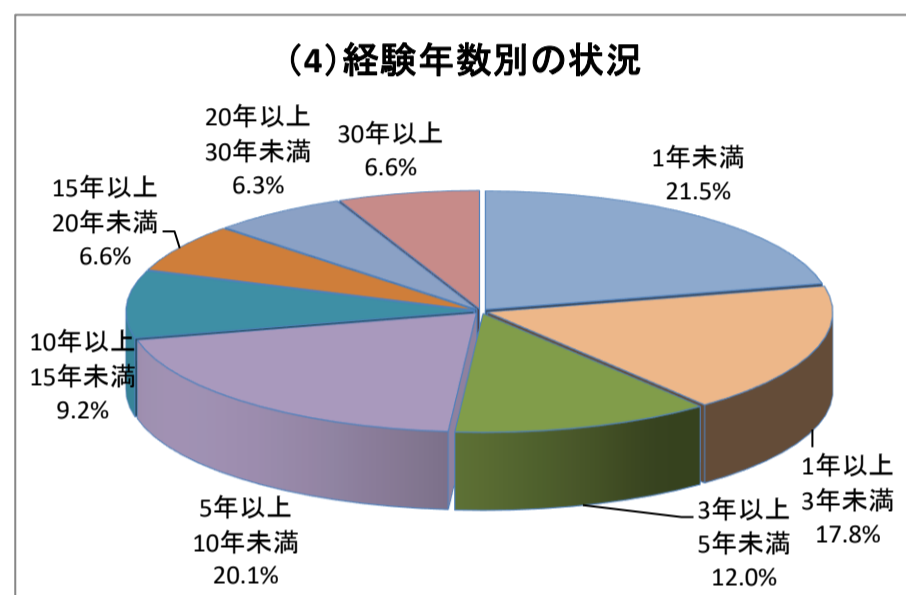
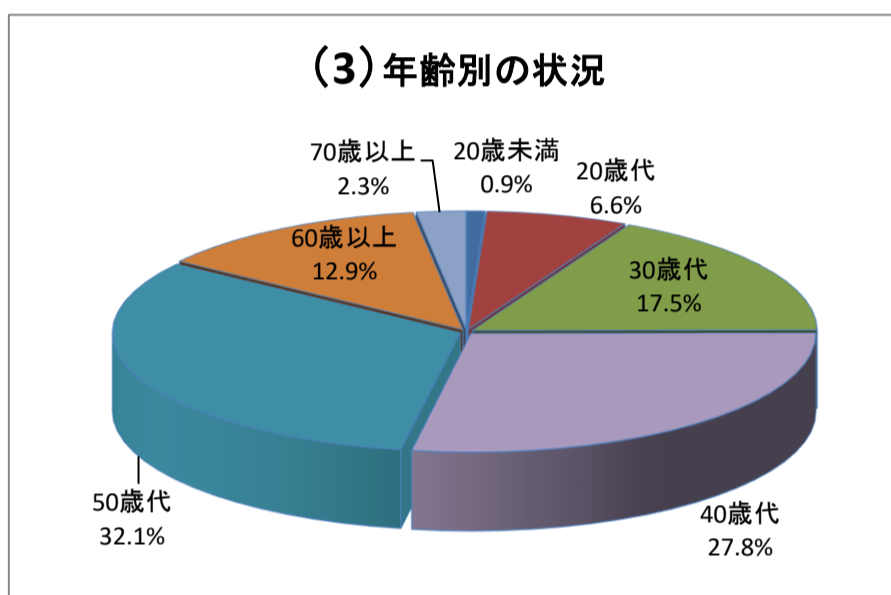
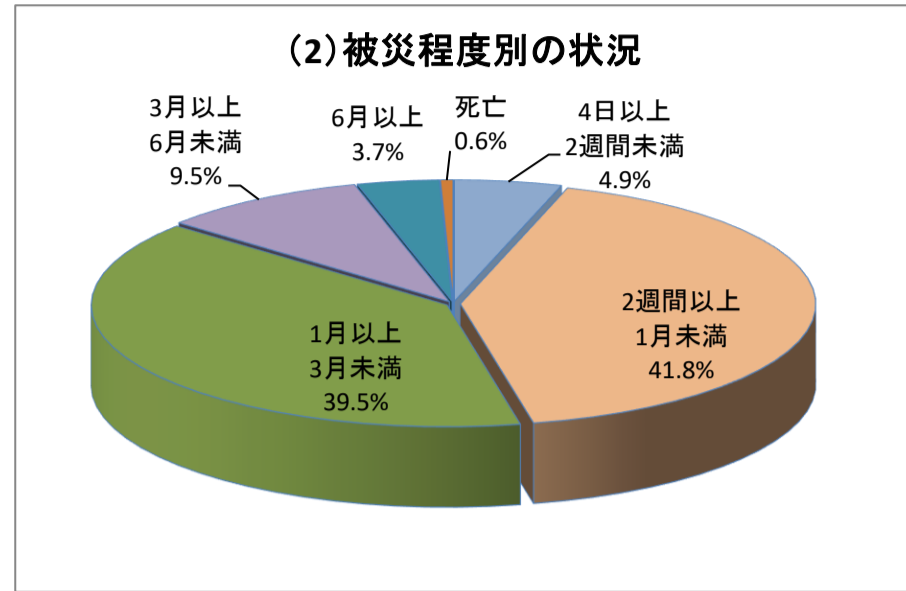
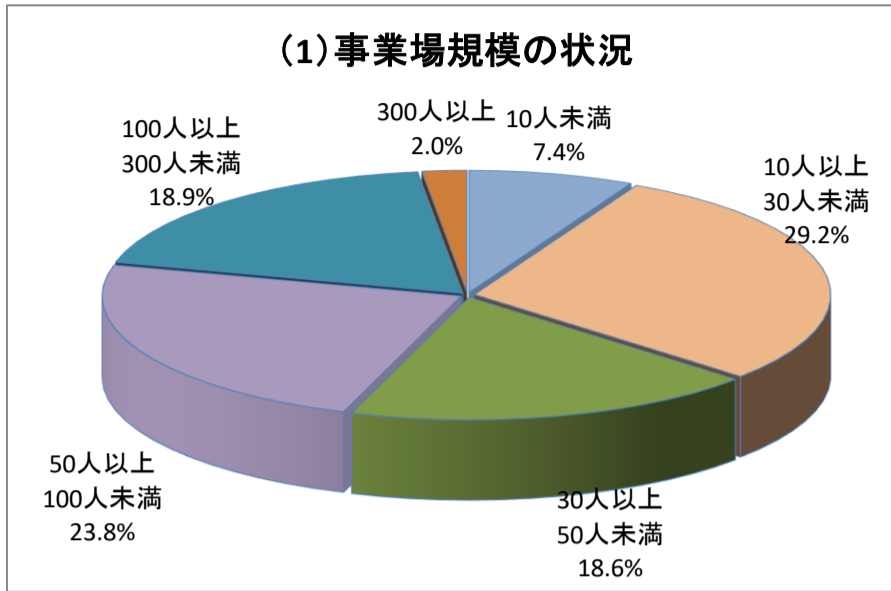
(建設業:352人)



- 「被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が44.3%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が19.9%、「4日以上2週間未満」が17.6%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合が62.5%となっている。
- 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「40歳代」が20.2%、「50歳代」が17.0%の順となっている。60歳代以上が31.8%と3分の1を占めている。
- 経験年数別では、「30年以上」が21.9%と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が17.3%、「5年以上10年未満」が15.9%の順となっている。経験年数が長い者の割合が高い。
- 事故の型別では、「墜落・転落」によるものが33.0%と最も多く、次いで「転倒」が12.2%、「はさまれ、巻き込まれ」が11.1%の順となっている。
- 起因物別では、「仮設物、建設物、構築物等」(屋根、梁、足場等)が27.8%と最も多く、次いで「材料」が12.8%、「用具」(はしご、脚立、玉掛用具等)が10.5%の順となっている。

15.陸上貨物運送事業における労働災害発生状況(令和元年)

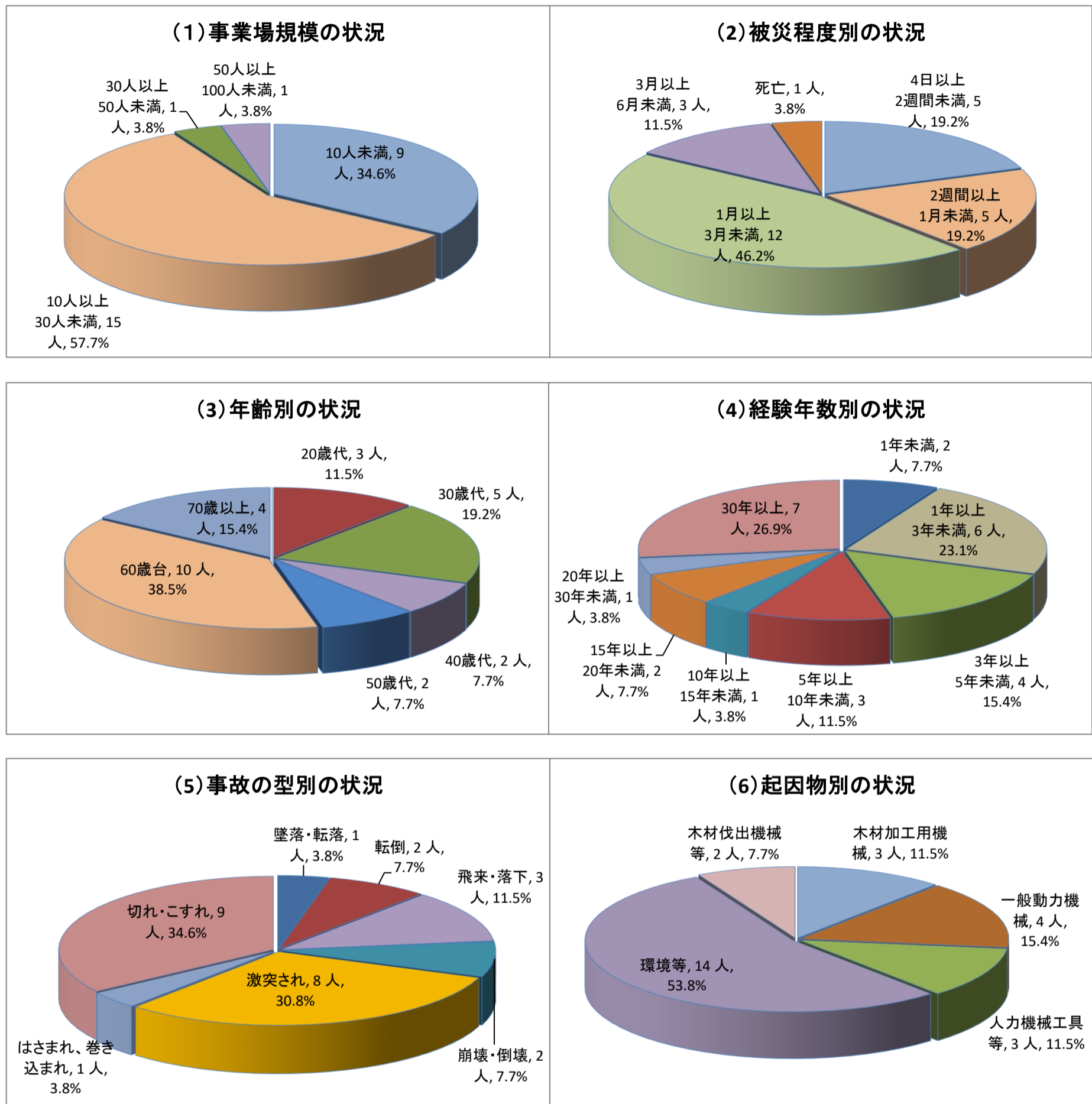
(陸上貨物運送事業:349人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が29.2%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が23.8%、「30人以上50人未満」が18.6%の順となっている。「50人未満」の事業場が55.2%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」が41.8%と最も多く、次いで、「1月以上3月未満」の災害が39.5%となっている。休業日数「1月以上」の災害の割合は53.3%である。
3. 年齢別では、「50歳代」が32.1%と最も多く、次いで「40歳代」が27.8%の順となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が21.5%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が20.1%、「1年以上3年未満」が17.8%の順となっている。
5. 事故の型別では、「墜落・転落」が31.2%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が16.9%(このうち22.0%で腰痛を発症している。),"「転倒」が15.5%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力運搬機」(トラック、フォークリフト等)が39.0%と最も多く、次いで「仮設物、建築物、構築物等」(通路、階段等)が17.5%、「荷」が9.5%の順となっている。

16.林業における労働災害発生状況(令和元年)

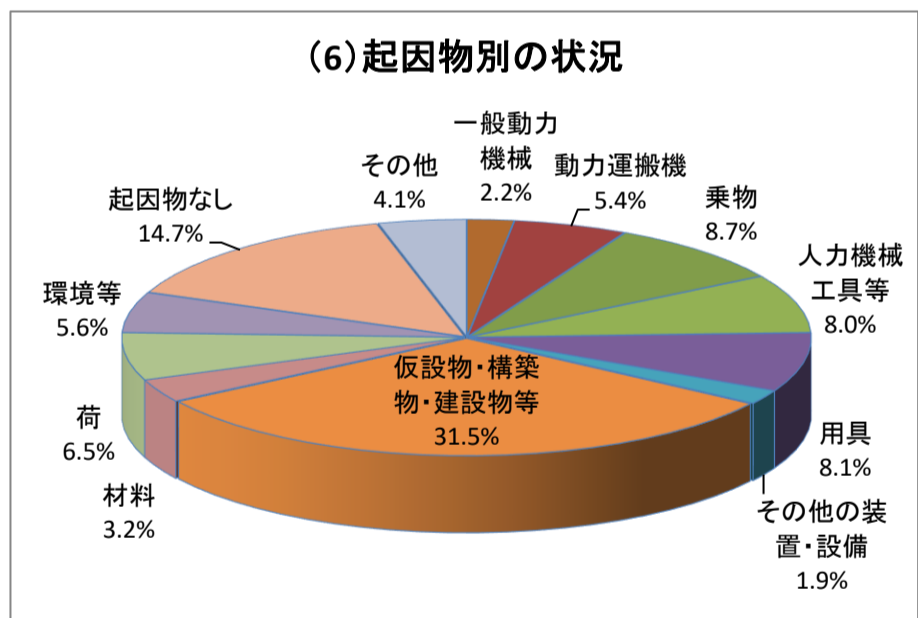
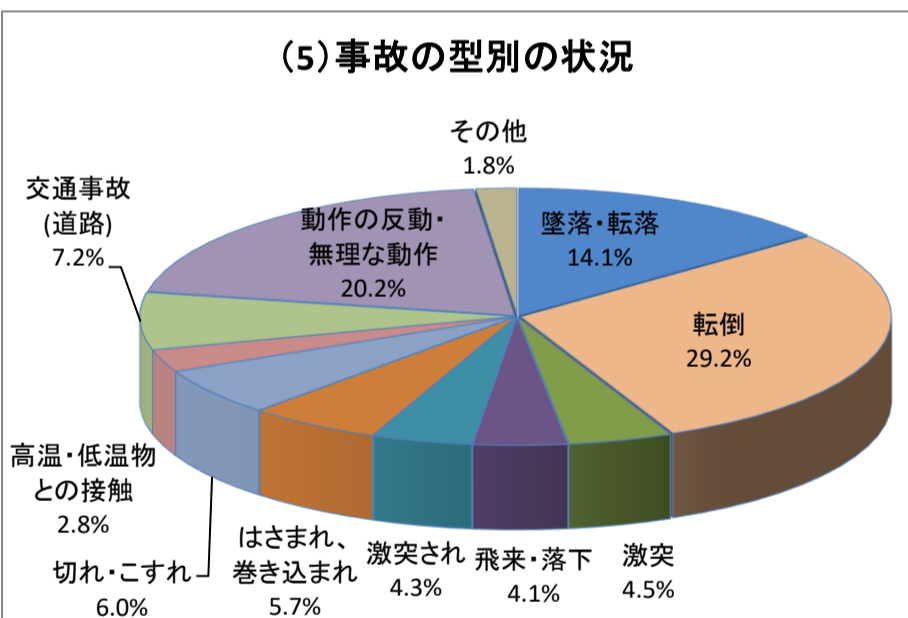
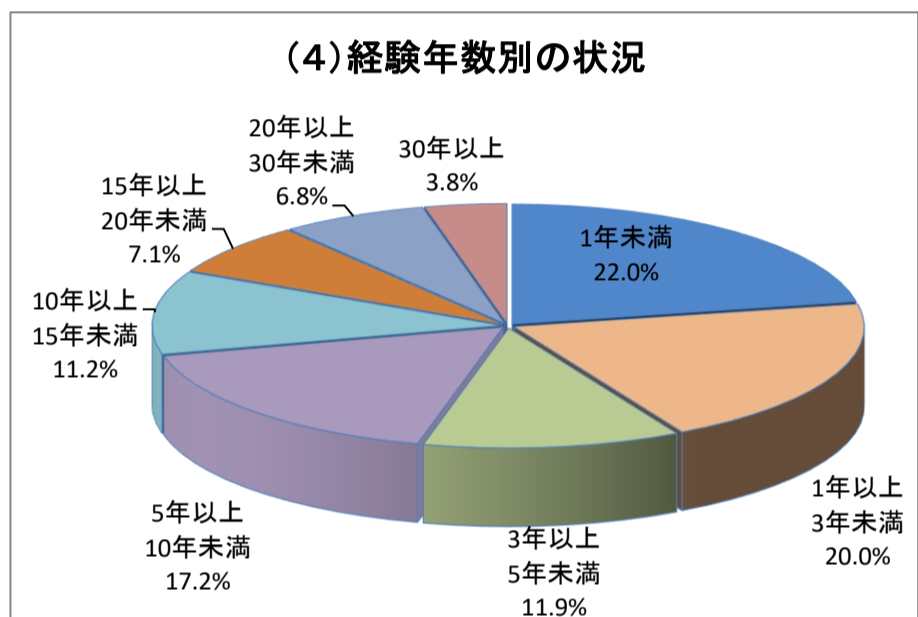
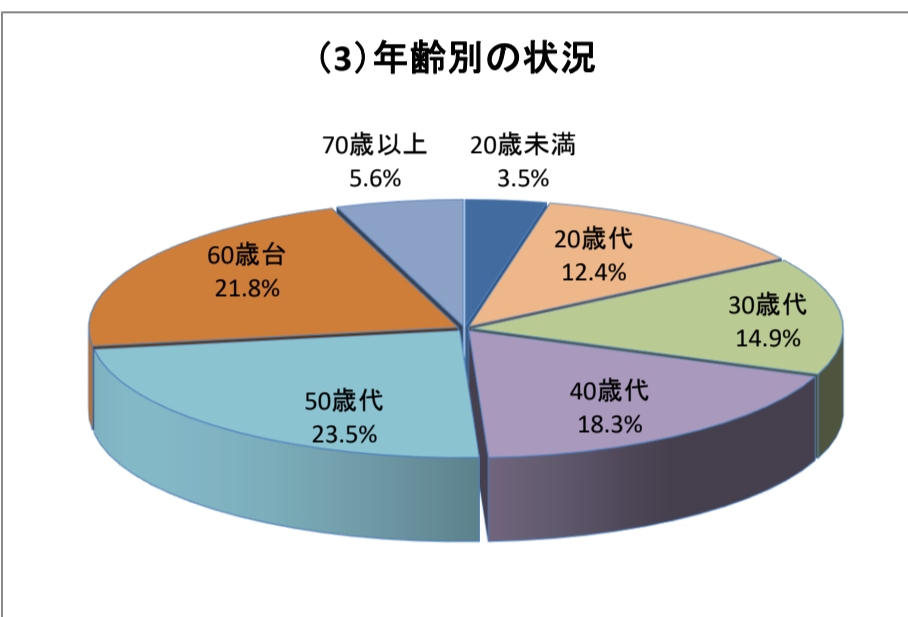
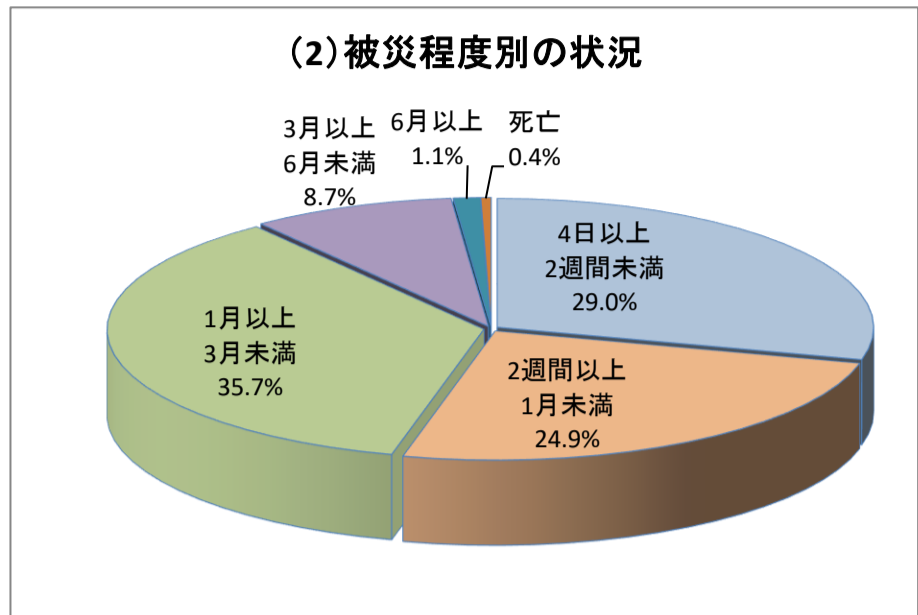
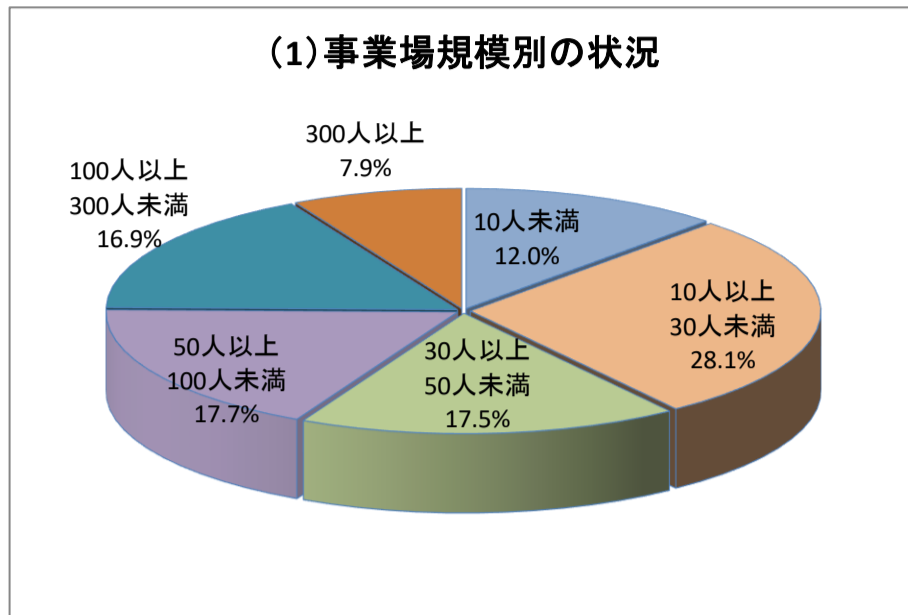
(林業:26人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が57.7%と最も多く、次いで「10人未満」が34.6%となっている。
2. 被災程度別では、「休業1月以上3月未満」が46.2%で最も多く、次いで「休業4日以上2週間未満」、「2週間以上1月未満」がそれぞれ19.2%となっている。全体の61.5%が休業日数1月以上の災害となっている。
3. 年齢別では、60歳代が38.5%と最も多く、次いで30歳代が19.2%、70歳以上15.4%と続いている。60歳以上で53.9%を占める。
4. 経験年数別では、「30年以上」が26.9%と最も多く、「1年以上3年未満」23.1%、「3年以上5年未満」15.4%の順となっている。
5. 事故の型別では、「切れ・こすれ」34.6%と最も多く、次いで「激突され」が30.8%、「飛来・落下」11.5%の順になっている。
6. 起因物別では、「環境等」(立木、地山等)が53.8%と最も多く、次いで「一般動力機械」15.4%となっている。

17.第三次産業における労働災害発生状況(令和元年)

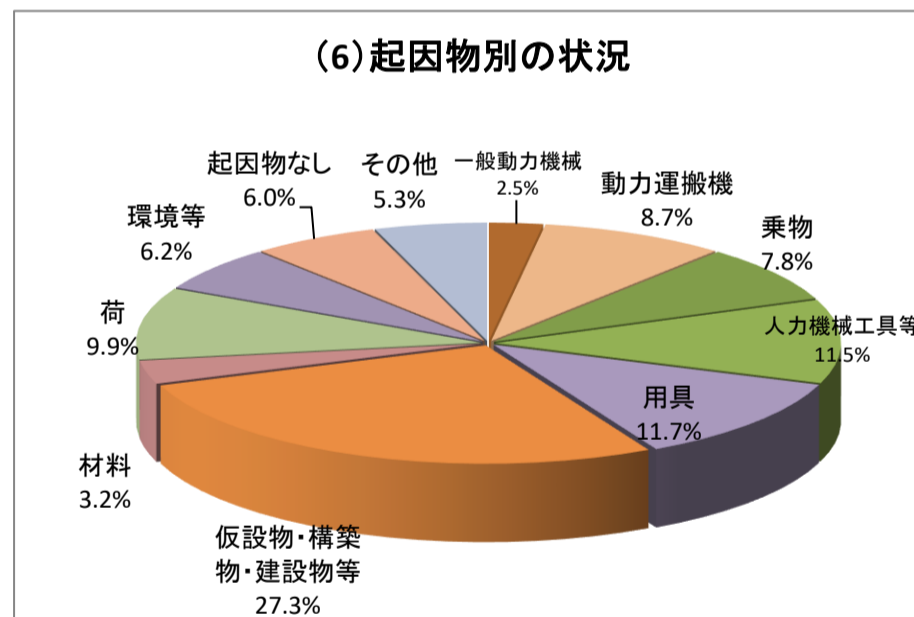
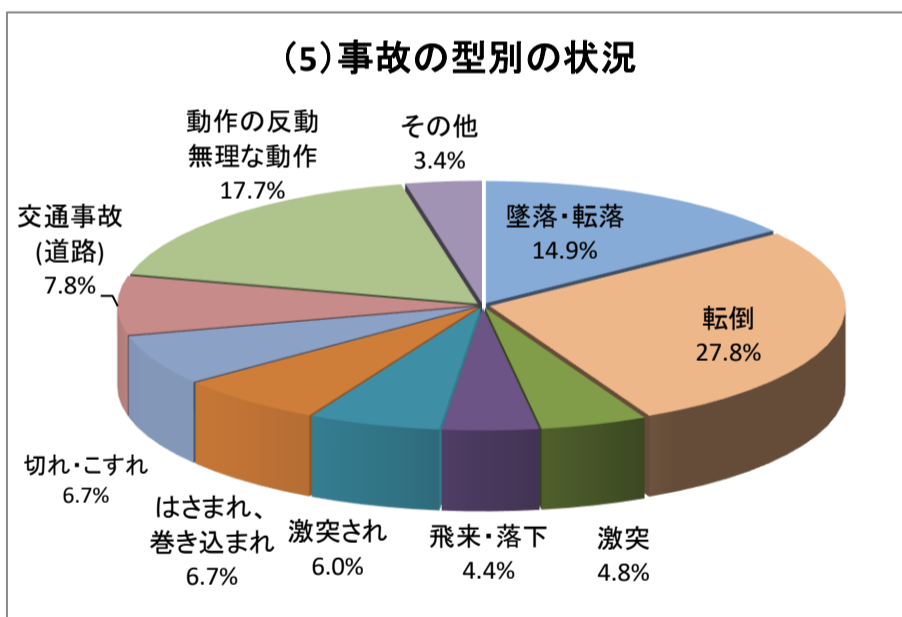
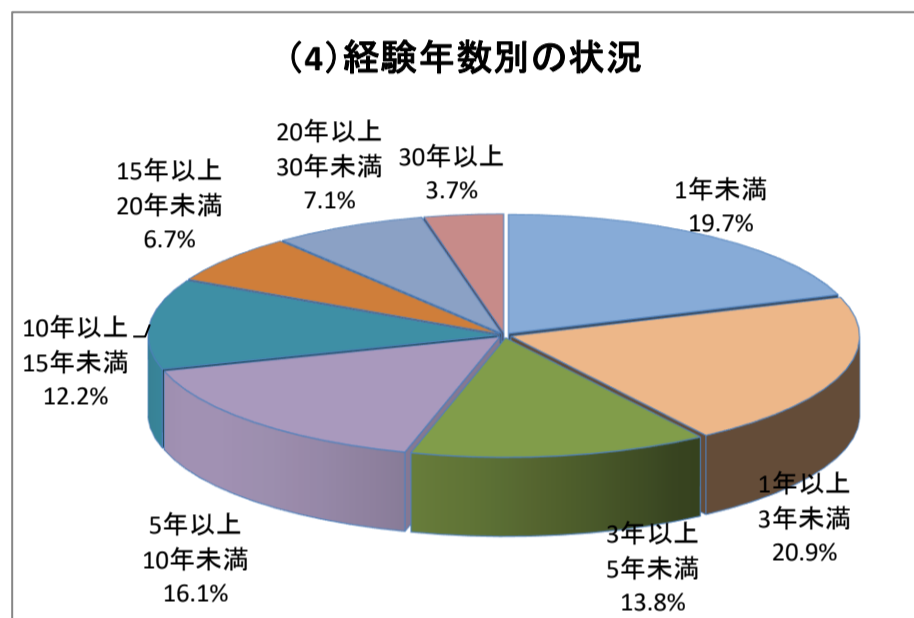
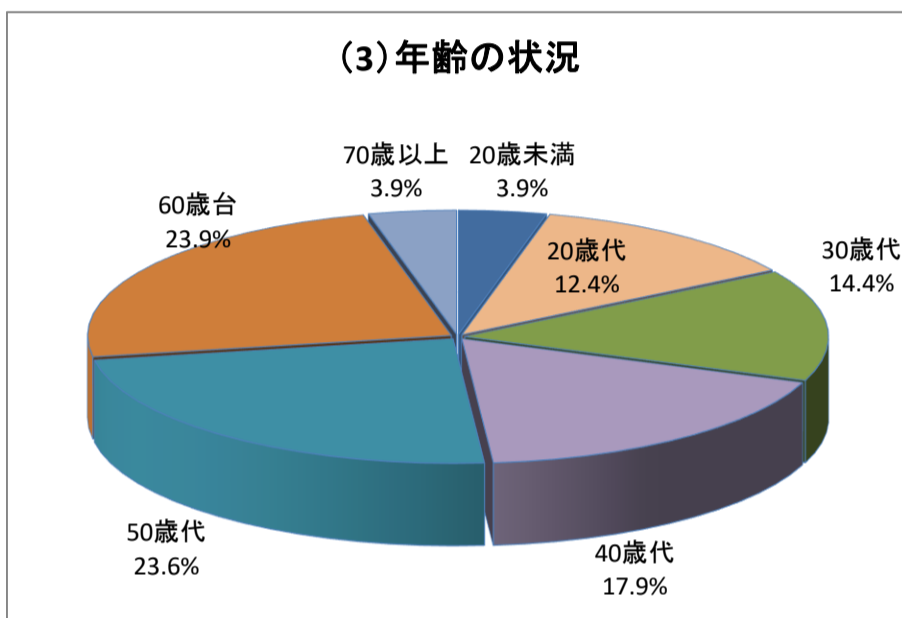
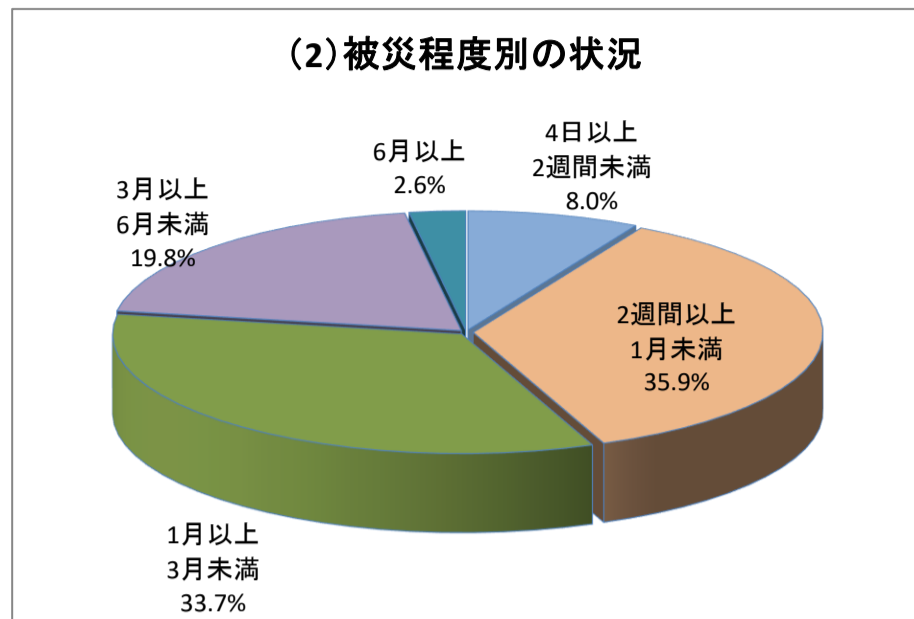
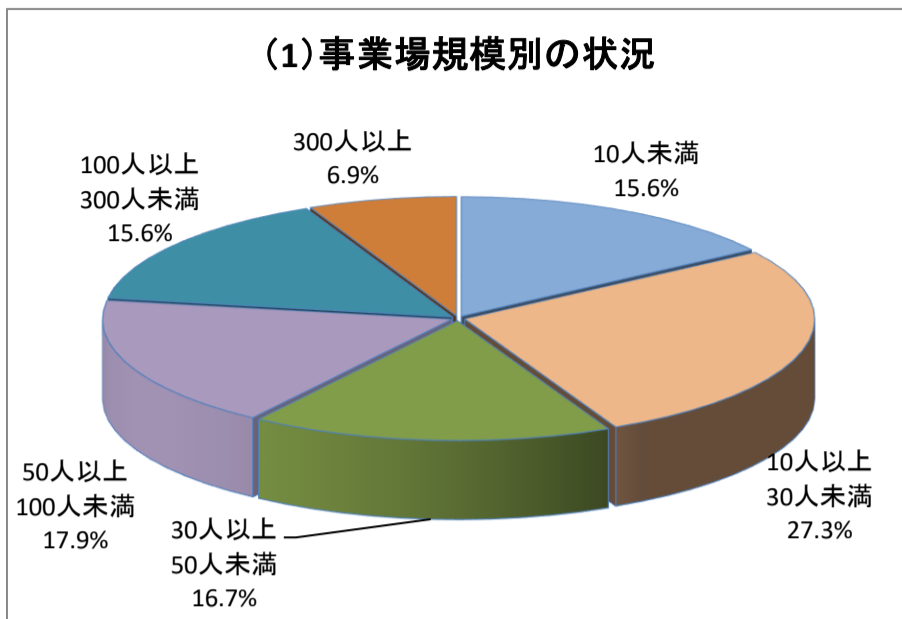
(第三次産業:1,133名)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が28.1%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.7%、「30人以上50人未満」17.5%の順となっている。50人未満の事業場が57.6%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が35.7%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」29.0%、「2週間以上1月未満」24.9%の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」の23.5%が最も多く、次いで「60歳代」が21.8%、「40歳代」が18.3%の順となっている。60歳代以上は27.4%となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が22.0%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が20.0%、「5年以上10年未満」17.2%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が29.2%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が20.2%（このうち25.3%が腰痛を発症している。）、「墜落・転落」が14.1%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」（通路等の床面、階段等）が31.5%と最も多く、次いで「起因物なし」14.7%、「乗物」（乗用車、バイク等）が8.7%の順となっている。

17-1.商業における労働災害発生状況(令和元年)

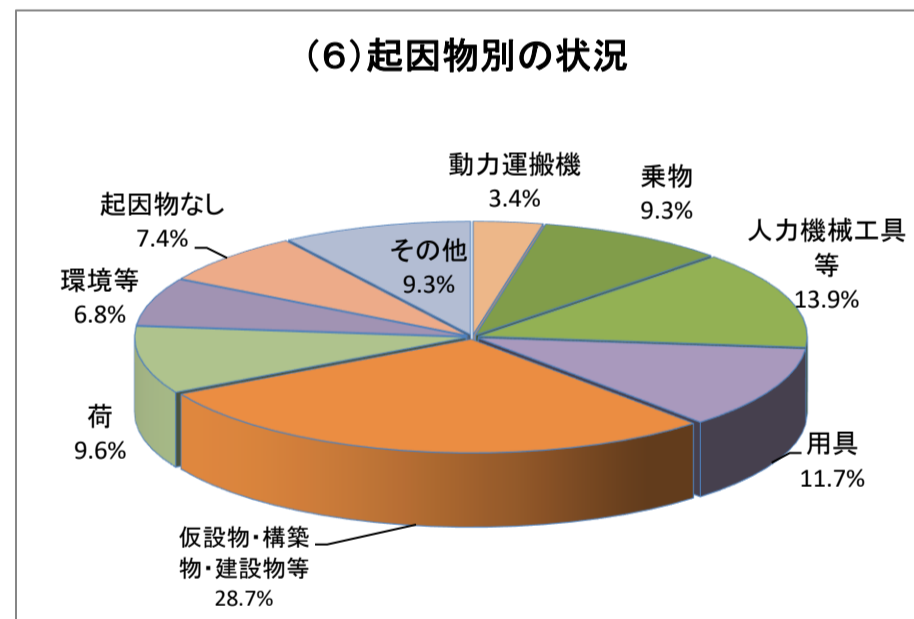
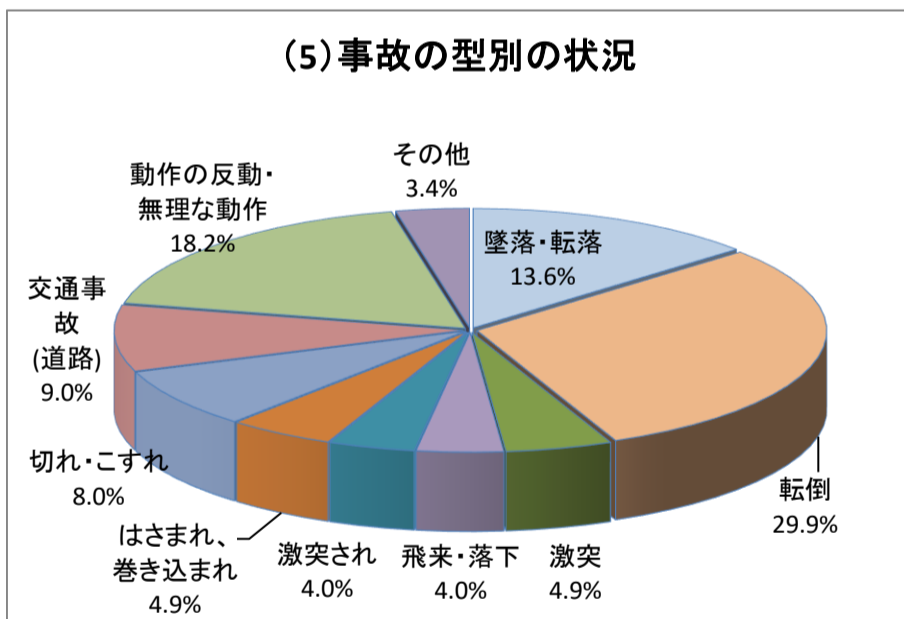
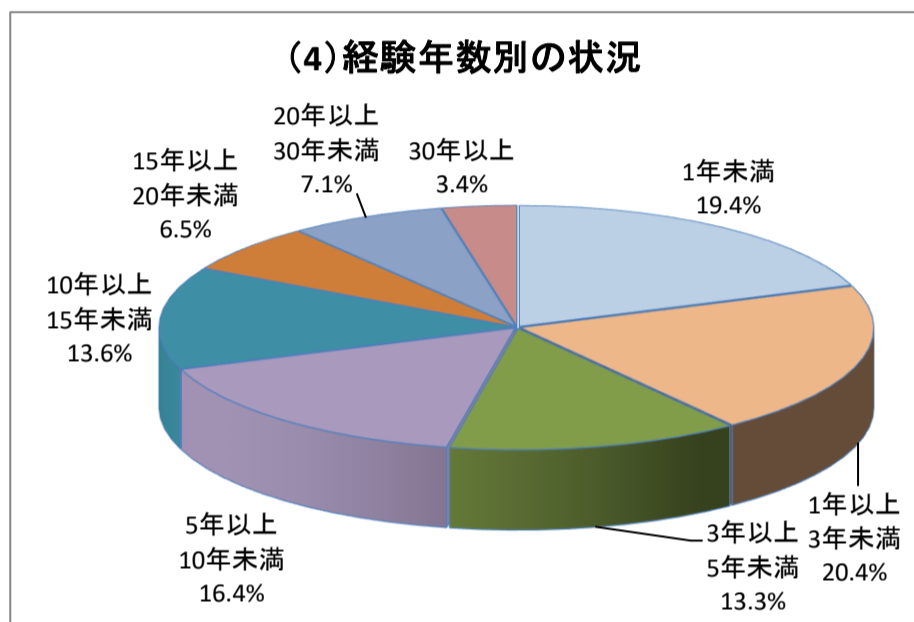
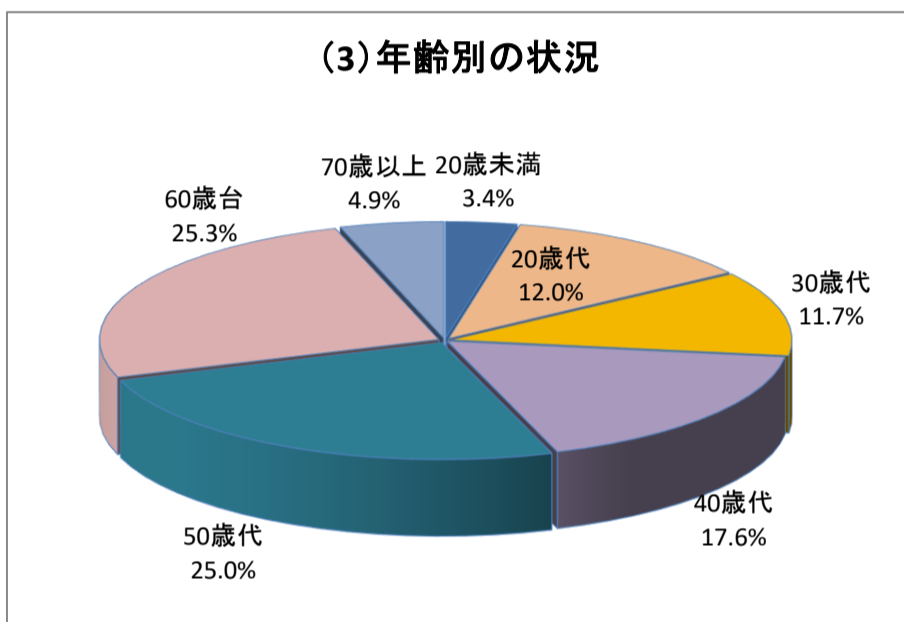
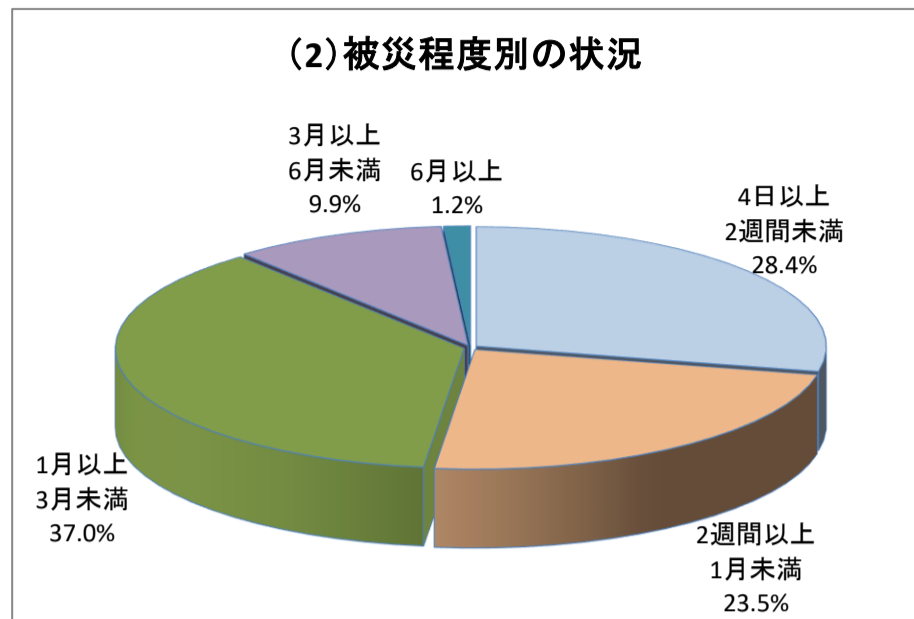
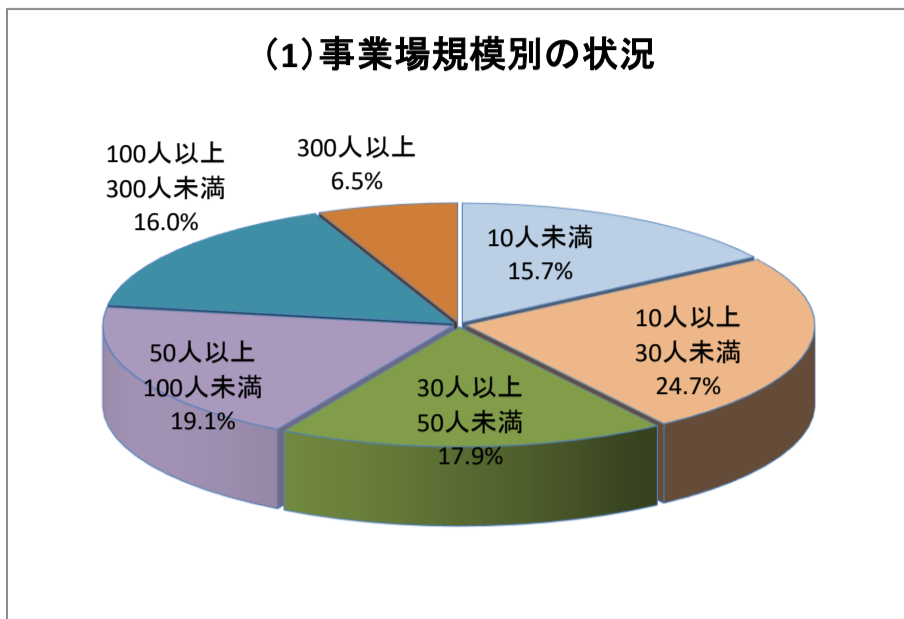
(商業：436人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が27.3%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.9%、「30人以上50人未満」16.7%の順となっている。50人未満の事業場が59.6%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」の災害が35.9%と最も多く、次いで「1月以上3月未満」が33.7%、「3月以上6月未満」19.8%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合は56.1%となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が23.9%と最も多く、次いで「50歳代」が23.6%、「40歳代」17.9%の順となっている。60歳代以上は27.8%となっている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が20.9%と最も多く、次いで「1年未満」が19.7%、「5年以上10年未満」が16.1%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が27.8%と最も多く、次いで、「動作の反動・無理な動作」が17.7%（このうち19.5%が腰痛を発症している。）、「墜落・転落」14.9%の順となっている。
6. 起因物別では、「建設物・構築物・仮設物等」が27.3%と最も多く、次いで「用具」が11.7%、「人力機械工具等」11.5%の順になっている。

17-2.小売業における労働災害発生状況(令和元年)

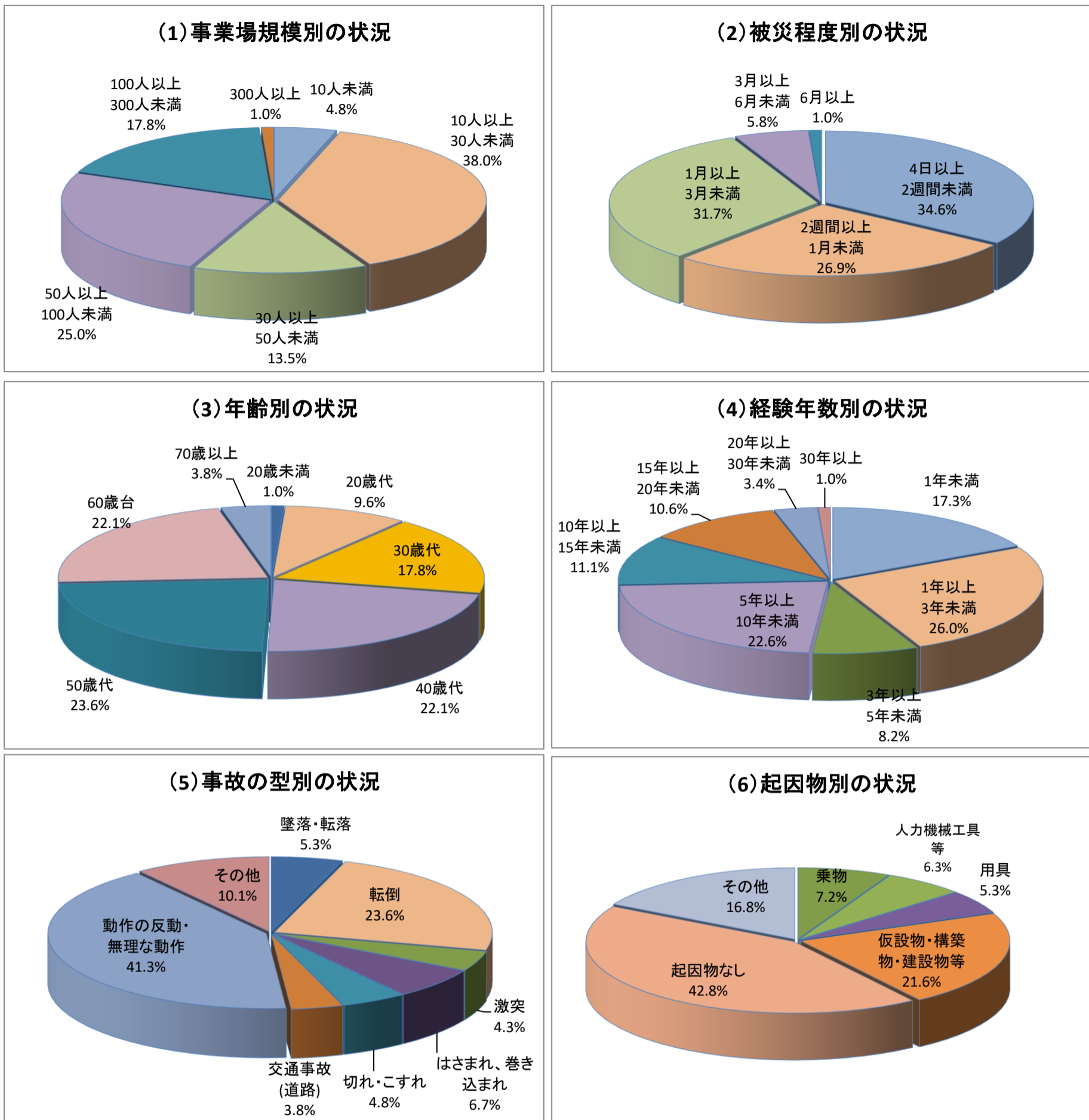
(小売業：324人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が24.7%、と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が19.1%、「30人以上50人未満」17.9%となっている。50人未満の事業場が58.3%を占めている。
2. 被災程度別では、「1月以上3月未満」の災害が37.0%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」28.4%、「2週間以上1月未満」23.5%の順となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「50歳代」が25.0%、「40歳代」17.65%の順となっている。60歳以上は30.2%を占めている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が20.4%と最も多く、次いで「1年未満」が19.4%、「5年以上10年未満」16.4%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が29.9%と最も多くなっており、次いで「動作の反動・無理な動作」が18.2%、「墜落・転落」13.6%の順となっている。
6. 起因物別では、「建設物・構築物・仮設物」が28.7%と最も多く、次いで「人力機械工具等」が13.9%、「用具」11.7%と続いている。

17-3.社会福祉施設における労働災害発生状況(令和元年)

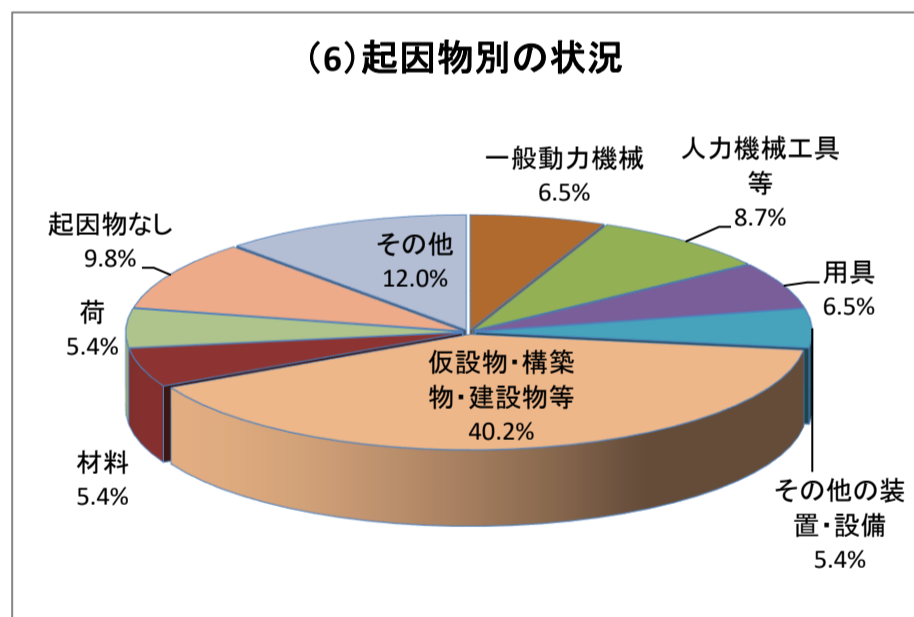
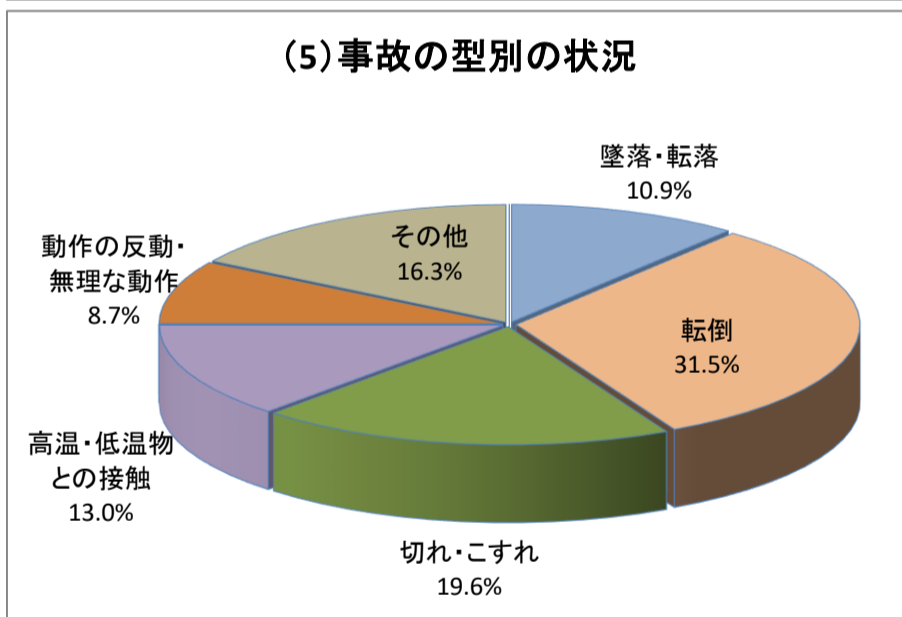
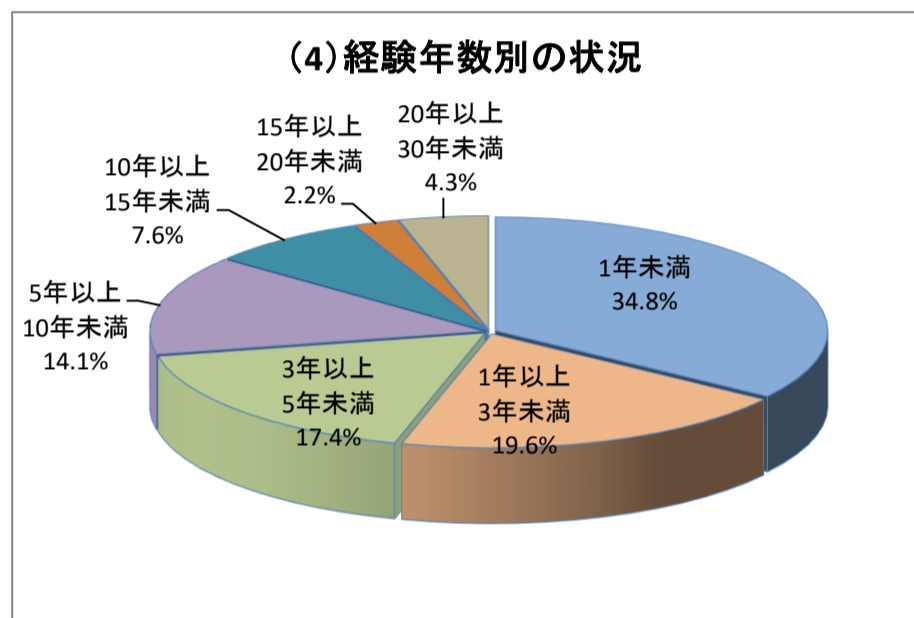
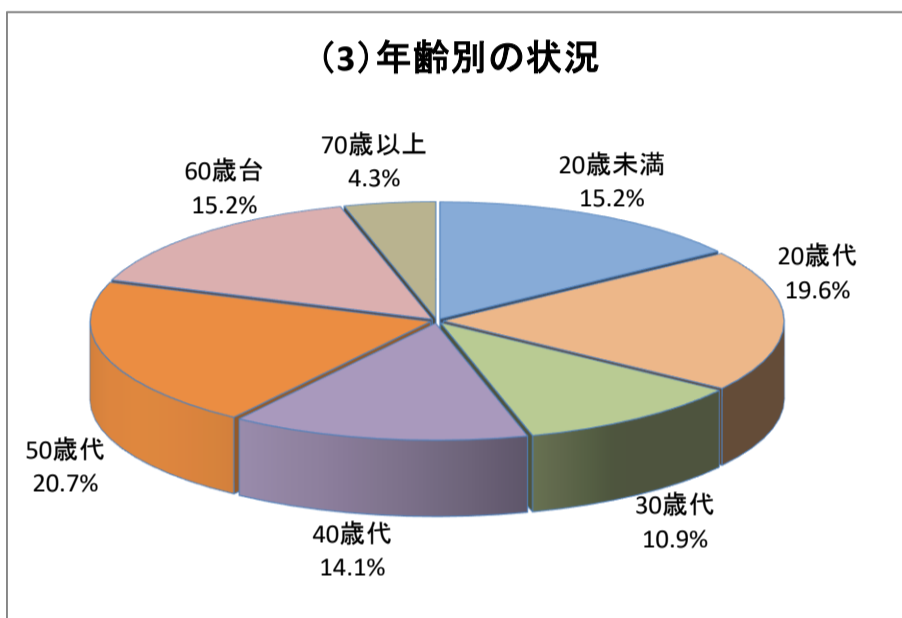
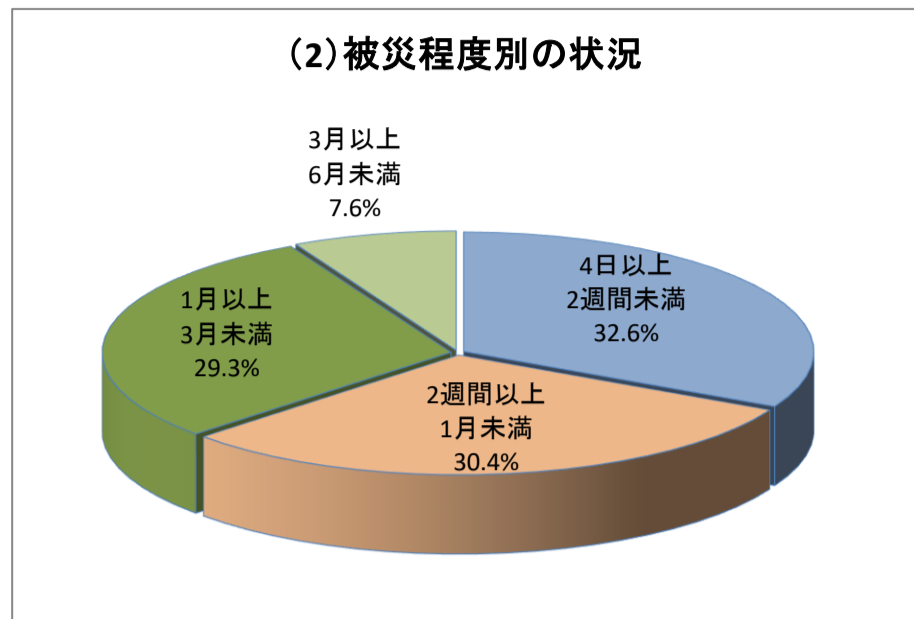
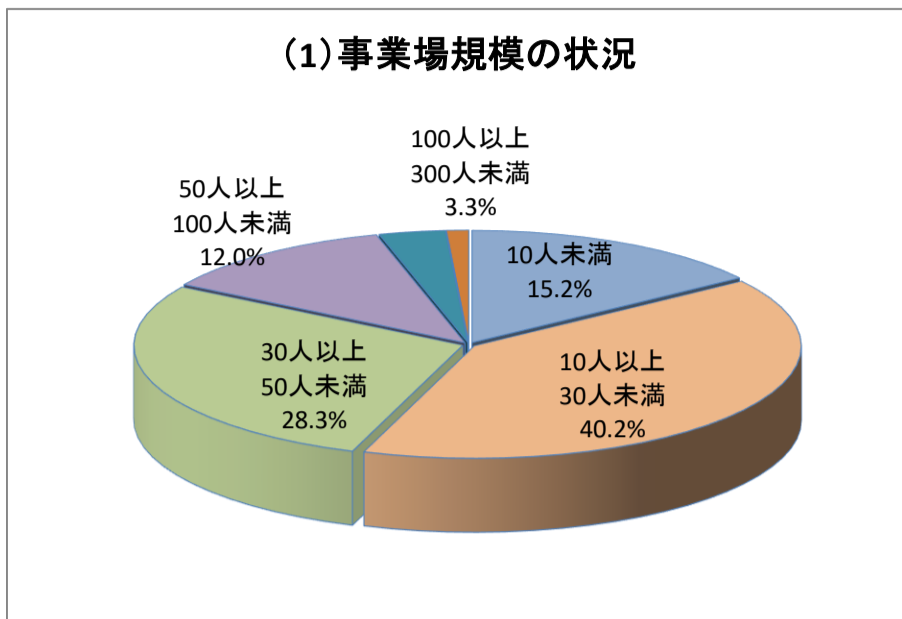
(社会福祉施設：208人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が38.0%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が25.0%、「100人以上300人未満」17.8%の順となっている。50人未満の事業場が56.3%を占めている。
2. 被災程度別では、「4日以上2週間未満」が34.6%と最も多く、次いで「休業1月以上3月未満」が31.7%、「2週間以上1月未満」26.9%の順となっている。
3. 年齢別では、50歳代が23.6%と最も多く、次いで、60歳代、40歳代がそれぞれ22.1%となっている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が26.0%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が22.6%、「1年未満」が17.3%の順となっている。
5. 事故の型別では、「動作の反動、無理な動作」が41.3%（このうち43.0%が腰痛を発症している。）と最も多く、次いで「転倒」が23.6%となっている。
6. 起因物別では、「起因物なし(人など)」が42.8%（このうち事故の型が「動作の反動・無理な動作」は87.6%）と最も多く、次いで「建設物・構築物・仮設物」が21.6%の順となっている。

17-4.飲食店における労働災害発生状況(令和元年)

(飲食店：92人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が40.2%と最も多く、次いで「30人以上50人未満」が28.3%、「10人未満」15.2%の順となっている。50人未満の事業場が83.7%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「4日以上2週間未満」が32.6%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が30.4%、「1月以上3月未満」29.3%の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が20.7%と最も多く、次いで「20歳代」が19.6%、「60歳代」、「20歳未満」がそれぞれ15.2%の順となっている。60歳以上は19.5%となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が34.8%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が19.6%、「3年以上5年未満」17.4%の順となっている。3年未満が54.4%となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が31.5%と最も多く、次いで「切れ・こすれ」が19.6%、「高温・低温の物との接触」13.0%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・構築物・建設物等」が40.2%と最も多く、次いで「起因物なし」が9.8%、「人力機械工具等」8.7%の順になっている。